**＜様式第５号＞**

**記載例**

**事　業　実　績　報　告　書**

**報告機関名：　○○○専門学校**

１　特別授業の実績

|  |  |
| --- | --- |
| No. | １　※複数の授業で申請する場合は、授業ごとに作成してください。 |
| 学科・コース等名 | ○○○○科 |
| 授業の名称 | 例１：○○を使用した○○実習例２：○○〈講師名〉による特別授業 |
| 実施期間 | 例１：令和５年○月○日（　）○時○分から○時○分例２：令和５年○月○日（　）、○月○日（　）の２日間 |
| 実施場所 |  |
| 参加生徒数 | 例１：○名例２：計○名（○日 ○名、○日 ○名） |
| 実施内容 | ※「概要」、「学習の目的」、「カリキュラム」、「講師概要」について、事業計画書の記載を基に、実施した内容を記載してください。■概要例１：特別講師（所属・氏名）による○○○○〈指導・学習の内容を記載〉に関する特別授業として、○○○○〈具体的な技術・道具名などを記載〉を用いた○○○○〈実習、実技指導、技術解説などの実施に内容を記載）を行った。例２：○○○○〈機材、施設の名称を記載〉を活用した○○○○〈指導・学習の内容を記載〉に関する特別授業として、○○○○〈実習や実技指導の名称などを記載）を行った。■学習の目的（テーマ）例１：○○〈業界の名称など〉の第一線で活躍する講師から、現場で必要とされる○○〈技術・技法などの名称〉の習得のポイントや、○○〈技術・技法などの名称〉に当たっての心構え、判断基準などの解説を受け、その活用方法を学ぶ。例２：顧客のニーズに合わせた○○〈具体的な技術・道具名など〉の実践的な使用方法を身に付ける。例３：実際の現場で行われている環境での作業経験ができるよう、○○〈機材、施設の名称など〉を使用した実践力の習得を目指す。■カリキュラム例：授業カリキュラムは、別添資料の「○○〈具体的な実習名など〉」のとおり。■講師概要所　属：○○○○株式会社役　職：○○○○氏　名：○○○○実績等：○○大会で△△△賞受賞○○で講義を開催○○協議会の審査員長を務める○○年から○○アドバイザーに就任 |
| 達成状況や具体的な成果 | ※　事業計画書の記載を基に、実施した内容を記載してください。※　記載いただいた内容は、とちぎジョブカレ！サイトへの掲載時にも活用しますので、高校生など一般の方が見た時にも分かりやすいよう、特別授業を受講することで学べる技術・技法・機器・知識などの具体的な名称や特徴、他との違いについて、「従前の授業概要」の記載内容と比較しながら分かりやすく記載してください。※　外部講師を活用する場合には、講師の経歴や技術、実績などに基づき、「この講師だから学べたこと」を具体的に記載してください。例１：外部講師を活用した実習の例■概要通常の授業でも学習している○○〈技術・技法名など〉の実施方法について、様々な顧客のニーズに対応できるよう、○○〈業界や企業名など〉で全国的に活躍されている現役の外部講師を招き、実際の現場での取り入れ方や注意事項を学ぶとともに、その応用技術である○○〈技術・技法名など〉の技法を学んだ。　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明○○とは、○○○○時に使用する技法の一つで、○○を○○する方法。その作業は、○○、○○、○○の３つの工程から成る。（詳細については別添を参照）中でも○○の作業は、仕上がりに大きく影響することから、作業着手前に顧客と十分なコミュニケーションを図り、要望を十分に聞き取った上で実施する必要がある。また、○○の作業は、○○や○○など、基礎的な技術から展開する幅広いバリエーションがあるため、多くの知識と経験が必要とされる。　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント日本有数の企業の第一線で活躍している現役講師から、○○作業時における顧客の具体的な要望を引き出すコミュニケーションスキルについて、グループワークを行った○○作業における○○〈技術・技法名など〉の応用技術の実演と解説を受けた■成果全国的に活躍されている現役の外部講師から○○〈作品や成果物など〉に必要となる○○〈技術・技法名など〉の実践方法を学び技術向上につながった○○〈技術・技法名など〉の応用技術である○○〈技術・技法名など〉の技法を学んだ例２：外部講師を活用した講演会の例１■概要○○○○〈技術・技能名など〉の実習については、これまで常勤講師が行っていたが、世界大会などへの出場経験もあるプロの技術を間近に体験させ、世界レベルの技術習得に向けて、○○〈技術・技法名など〉の基礎技術の練度を高める重要性を学ぶことで、さらなる技術の定着につながった。特別授業においては、現役の○○講師による○○〈技術・技法名など〉実演（又は写真・動画による解説など）を行われ、現場での経験に基づく基礎技術の応用や心構えなどの説明を受けた。　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明○○とは、○○○○時に使用する技法で、○○を○○する時に行うもの。○○、○○、○○など、他の応用技術に展開する重要な基礎技術である。単純な作業の組合せあるが、数ミリ単位での精度が求められ、さらに長時間の作業を行うことから、仕上がりに大きく影響する技術である。（詳細については別添を参照）■特別授業の内容、実演や解説のポイント長年の実践経験をもつ講師による講演会を開催○○〈技術・技法名など〉のデモンストレーションと解説を受けた技術の練度を高めるために必要なの○○〈技術・技法名など〉の練習方法に関する実習を行った作業時に集中力を維持するためのポイントの説明を受けた■成果　世界大会などへの出場経験もあるプロの技術を間近に体験することで、○○〈技術・技法名など〉の基礎技術の理解が深まり、練度を高める重要性を学ぶことができた。○○〈技術・技法名など〉など、新たな知識が習得できた例３：外部講師を活用した講演会の例２■概要○○○○〈技術・技能名など〉の学習については、これまで常勤講師による授業を行っていたが、○○業界のトレンドは日々変化しており、優れた○○〈作品や成果物など〉を作り出していくためには、○○○○〈技術・技能名など〉などの基本技法だけでなく、時代に合わせたスキルを身に付ける必要がある。そこで、業界の第一線で活躍する現役の○○講師が経験から培った技術の中から、顧客のニーズに応えるための○○〈作品や成果物など〉のデザインや○○〈技術名など〉に関する最新の知識、施術方法について学んだ。　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明　　　　○○〈作品や成果物など〉の制作に必要な○○○○〈技術・技能名など〉は、○○を○○する基本技法の一つ。応用の範囲が幅広く、業界で活躍していくためには、精度だけでなくオリジナリティや状況に合わせた柔軟性が求められる。（詳細については別添を参照）　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント　　　　○○の業界でプロとして独立し、長年の第一線で活躍する講師の講演会を開催した。デザイン力を高めるための○○〈技術・技法名など〉の練習方法の実演（又は写真・動画による解説など）があった○○〈技術・技法名など〉などに関する最新の業界情報についての解説を受けた■成果第一線で活躍する講師から、業界のトレンドを捉えた○○〈技術・技法名など〉の施術方法や○○〈技術名など〉に関する最新の知識を学ぶことができた。例４：より実践的な環境を整備して行う例■概要これまで、○○○○〈技術・技能名など〉の授業は、実習室において模擬ブースを設置し、常勤講師が行っていた。実際の現場（屋外・施設）では、日照や風、温度などの天候や騒音、建物の影響など様々環境に左右されることがあることから、○○（施設名など）を実習場として借用し、実際の現場に近い環境で実習を行うことで、○○〈技術・技法名など〉に関するより実践的な判断能力を養う実習を行った。　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明　　　　○○〈技術・技法名など〉の実習の工程は、まず○○し、次に○○を行い、○○をして仕上げていく。従来の授業では、別添のような校内の既設ブースで作業を行う。　　　　（詳細については別添を参照）　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント　　　　外部講師は活用しないが、○○（施設名など）を実習場に見立てて、より実際の現場に近い環境を再現した模擬実習を開催した。　　　　通常の授業とは異なる視点（道具や器具の配置、天候等の影響、突発的なアクシデントに対する危機管理など）からの想像力・判断力を養うことができた。■成果実際の現場を想定した環境で実習することで、実践的な○○〈技術・技法名など〉の判断能力を養うことができた。例５：授業内容の充実を行う例■概要○○〈作品や成果物など〉の作成の実習については、これまでも常勤の講師により実施してきたが、機材を複数人で利用しているため、個人の十分な実習時間が確保できていない状況であった。そのため、不足分の○○〈道具名や材料名〉を追加で購入（又はリース）し、実習グループをより少人数（６人→３人）にすることで、より密度の高い実習を行った。　　　■○○〈技術・技法名など〉の概要・説明　　　　○○〈作品や成果物など〉の実習の工程は、まず○○し、次に○○を行い、○○をして仕上げていく。二つ目の工程においては、○○〈道具名や材料名〉を使用する必要があるが、現在は○個しかないため、同数の○グループに分かれて作業している。　　　　（工程の詳細については別添を参照）　　　■特別授業の内容、実演や解説のポイント　　　　外部講師は活用しないが、○○〈道具名や材料名〉の数を充実させることで、個人の十分な実習時間を確保するとともに、実習時間が短縮されることで、必要な技術指導や振り返りの時間が確保でき、確実な○○〈技術・技法名など〉の習得につながった。■成果　少人数単位で実習することで、効率よく授業を実施し、確実な○○〈技術・技法名など〉の習得につなげることができた。 |
| 今後の課題と対応 | 　※今後の授業で取り組んでいくことや次回への改善点や展開など、２つ程度記載してください。例１：今回学んだ○○〈技術・技法名など〉が定着するよう、日頃の授業でも練習を取り入れていく。例２：今回は○○〈技術・技法名など〉の入門的な内容であったことから、より実践的な内容の特別授業の開催を検討していく例３：学生の役割分担を決めて交代しながら実習を行ったが、全ての役割を実施するための時間が不足していた。次回は日数を増やした内容での開催を検討する必要がある。例４：限られた時間で効率的に指導してもらえるよう、事前に講師への質問事項等を集約しておき、講師に提供しておく必要があると感じた。例５：学科単独ではなく、他学科の学生と合同実習とすることで、学生同士の刺激にもなり、それぞれの視点から学ぶことができるので、次回までに検討していく。例６：学生だけでなく、学校の講師にも新たな気づきや技術の向上につながる内容であったことから、定期的な開催につなげていきたい。例７：最新の業界情報やトレンドをどのように取り入れていくか、その手法を学ぶことができたため、今後の授業の中でも同じような指導ができるよう展開していく。 |
| 実施に要した経費 | 別添「収支精算書」のとおり |

※　事業の実施状況が分かる資料・写真を添付すること。（添付したものにチェックを記入）

添付書類

☑　記録写真（購入した物品などが使用されている作品や成果物、授業風景）

☑　特別授業のスケジュール（事前の講師打合せ、準備を含む）

☑　授業の指導内容が分かるもの、カリキュラム、シラバス（指導計画）

☑　領収書、契約書の写し

☑　受講者のアンケート・感想（集計した概要 又は 個票の写し）　※該当がある場合